大学院生シンポジウム GS03

臨床を反映した動物モデルを用いた病態解明の最前線

The Frontier of Pathophysiological and Pharmacological Studies Using Animal Disease Models Reproducing Clinical Symptoms

宗 可奈子[1], 西中 崇[2]

[1]京大院薬, [2]神戸学院大薬

これまで創薬研究において、疾患の動物モデルが様々な治療薬や治療法の開発に大きく貢献してきた。しかし、現在においても、その病態メカニズムが不明なものや適切な治療薬が存在しない疾患が少なからず存在する。その主な原因として、これまでの動物モデルが臨床所見と乖離し、ヒト疾患への外挿性が低いこと、加えて動物モデルに対する既存の評価系が、臨床における病態を適切に評価できていない点が挙げられ、近年、大きく問題視されている。このような問題を解決するためには、実際の疾患を目の当たりにし、臨床の知識を有したものが、よりヒトの病態を反映した新しい動物モデルを構築・評価することが、突破口となる可能性がある。そこで本シンポジウムでは、６年制薬学部を卒業し、４年制大学院で臨床への応用を視野に入れた基礎研究に取り組む大学院生６人が、精神疾患、疼痛、眼科領域など様々な分野から、より臨床に近い動物モデルを用いた病態の解明、さらに今まで動物モデルが存在しなかった疾患における新規動物モデルの開発などについて最新の知見を報告する。本シンポジウムにおいてこれからの薬学を担う４年制大学院生が発表を行い、臨床、基礎研究、両方の視点から議論することにより、今後どのような形で臨床の問題を基礎研究として発展させられるか具体的に考えるきっかけとなることを期待したい。